

村上友晴—Murakami Tomoharu

【略歴】

- 1938 | 母の実家、福島県三春町で生まれ、東京に住む。
- 1961 | 東京藝術大学日本画科卒業、専攻科入学。最初の個展を美松書房画廊で開く。この時は、日本画顔料を使用した黒の絵画を「村上友康」の雅号で発表する。「読売アンデパンダン展」(東京都美術館)に出品('62も)。
- 1962 | 中央画廊、養清堂画廊で個展を開く('63も)。
- 1964 | 昨年の個展がきっかけになり、「グッゲンハイム国際賞 1964 展」(グッゲンハイム美術館、ニューヨーク)に招待出品となる。日本人作家ではほかに、川端実、オノサトトシノブ、田中敦子、吉原治良がいた。村上は 26 歳の若さでの抜擢であった。これを機にはじめて渡米し、当時の抽象表現主義の絵画と出会い衝撃を受ける。「現代美術の動向 絵画と彫塑」(国立近代美術館京都分館)
- 1975 | 南画廊で個展が企画される。以降、雅号をすて、「村上友晴」の名で洋画家として発表していく。
- 1978 | 雅陶堂ギャラリーで個展が企画される。現在まで継続的に開かれている横田茂ギャラリーにつながる雅陶堂ギャラリー個展の第 1 回目となる。(雅陶堂ギャラリーは、1984 に雅陶堂ギャラリー竹芝、1989 に横田茂ギャラリーとなる)
- 1979 | 「志水楠男と作家達」(南画廊)
- 1981 | 「第 16 回サンパウロ・ビエンナーレ」(コミッションナー：三木多門)に招待出品。日本からは、ほかに菅木志雄、福岡道雄。「日本現代美術展 70 年代日本美術の動向」(韓国文化芸術振興院会館、ソウル)に招待出品。
- 1984 | 「現代美術の動向Ⅲ 1970 年代の以降の美術—その国際性と独自性」(東京都美術館)
- 1987 | ジェイムス・コーコラン・ギャラリー(ロサンゼルス)で個展が開かれる。以降、不定期に継続して開かれる。
- 1986 | 個展『東大寺 修二会』が雅陶堂ギャラリーで開催される。このころ何年にもわたり訪れた、東大寺、二月堂のお水取りを主題にした作品を制作する。
- 1988 | 「ロスク'88 ダブリン国際美術展」(ダブリン)に招待出品。
- 1989 | 個展『十字架の道』(横田茂ギャラリー) これまで『untitled』としていた作品に、このころから、個展、

作品にタイトルが付され、連作の作品が制作されるようになる。『Books of Hours』1990、『The Cross』1997、『クリスマス・ブック』2006、『聖夜』2007、『pieta』2009 など。

- 1994 | 「色の博物誌・赤—神秘の謎解き」目黒区美術館
- 1995 | 「カーネギー インターナショナル アワード」(ピッツバーグ)に招待出品。「現代美術への視点 絵画、唯一なるもの」(東京国立近代美術館)
- 1998 | 「色の博物誌・白と黒—静かな光の余韻」目黒区美術館
- 2000 | 「感覚+感覚性」ウィスバーグ新美術館(ブレーメン)
- 2004 | 「モノクローム絵画の魅力 桑山忠明・村上友晴を中心に」(千葉市美術館)
- 2005 | 「絵画のカー—今日の絵画 近年新収蔵作品を中心として」(いわき市立美術館)
- 2008 | 『マリア礼拝堂』のシリーズが始まる。
- 2009 | 「眼をとじて“見ること”の現在」(茨城県立近代美術館、水戸)
- 2010 | 「静けさのなかから：桑山忠明/村上友晴」(名古屋市美術館)それぞれ個展として前期・後期に開催。
- 2011 | 「企画展 村上友晴展」(京都精華大学ギャラリーフロール)
- 2014 | 「横浜トリエンナーレ 2014」(アーティスティック・ディレクター：森村泰昌)に招待出品。
- 2015 | 「ライフ=ワーク」(広島市現代美術館)

現在、個展としては、横田茂ギャラリーを中心に発表。1997 年からはほぼ毎年クリスマスを挟んだ年末に行われている。昨年末は、横田茂ギャラリーと、ロサンゼルス・ケイン・グリフィン・コーコランで個展が開催された。東京都目黒区に在住。

【所蔵先】 国立国際美術館、滋賀県立近代美術館、高松市美術館、千葉市美術館、東京オペラシティアートギャラリー、東京国立近代美術館、東京都現代美術館、豊田市美術館、名古屋市美術館、原美術館、広島市現代美術館、ふくやま美術館、町田市立国際版画美術館、目黒区美術館

ヴェザーブルク美術館、クレメンス・ゼルス美術館、ドイツ銀行、クリーヴランド美術館、ニューヨーク市立図書館、チェース・マンハッタン銀行